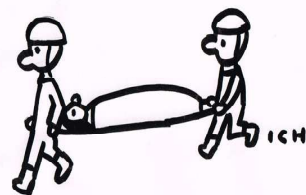


脳梗塞（のうこうそく）に迅速な対応を

土曜日の夕方、脳梗塞を起こした方がただちに総合病院救命救急センターに運び込まれました。しかしその翌日まで専門医に診てもらえませんでした。その患者さんは t-PA という治療を希望しましたが、結局その治療を受けることができませんでした。重い後遺症が残り、2年後の今もリハビリをしておられます。

六月議会で取り上げたところ、病院管理者＝院長は「夜間休日は、脳神経外科医が対応する24時間体制が

があり、脳梗塞に対して万全である」という内容の答弁をしました。



ええっ？当の患者さんも私もびっくり。そこでさまざまな情報公開をして事実を調べました。次のようなことが分かってきました。

○脳神経外科医は毎晩当直しているわけではない。この日もいなかった。

○タイムカードを見るとこの日の夕方約40分にわたり、研修医しかいない時間帯があった。

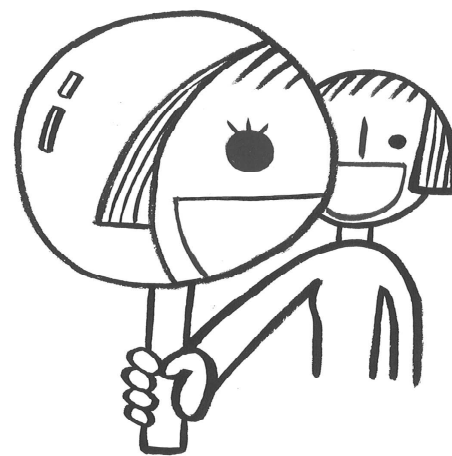
○仕方なく病棟本館から専門外の当直医が来て治療をしたが、脳の血管に詰まった血栓を溶かすことはできなかった。

ひだ紀子は

脳梗塞は脳の血液の流れが止まって、その先の脳細胞が死んでしまう病気。手足のしびれ、まひ、ろれつが回らないなどの症状が現れたら、一刻を争うので すぐに救急車を呼んで下さい。
t-PAは薬で血栓を溶かし脳の血流を再開する治療法。

専門医が不足しているならば他の病院と連携をとるべきでは？

9月議会で再び取り上げましたが、病院長は他の病院との連携は考えていない、という答のみ。北多摩西部の6市では脳梗塞や脳溢血の患者さんを確実に専門医が治療できるように連携体制をとっています。なぜ総合病院ではやらないのでしょうか。



情報公開ランキング

青梅市は東京都内で下から5番目

情報公開ランキング

全国市民オンブズマン連絡会が全国調査した結果、私たちの市は情報公開の姿勢が低いと評価されてしまいました。私はこれまで何度も情報公開の不足を指摘してきましたが、市の幹部の姿勢は根本的には変わらないままです。市の決まりである条例の見直しを先のばししているのは疑問です。

評価が低かった理由

○市長交際費の公開が不十分

○知る権利の保障が不十分

（全国市民オンブズマン連絡会のHPで詳しい調査結果をご覧ください）

こうチェックした

